

小中一貫教育だより

東条学園「つながる平和学習」

う質問に対し、「戦争がないこと」「家族や友だちがいること」「穏やかに暮らすこと」「おなかいっぱいご飯が食べられること」「学校に通えること」など意見が出され、更に担任の先生から資料を範読してもらう中で、平和の大切さについて実感していました。

9年生は各班に分かれて、4月に修学旅行で沖縄を訪問して学んだことを5～8年生に発表しました。その中で、太平洋戦争末期の沖縄戦では、沖縄県の当時の人口49万人のうち、約12万人が戦没し、4人に1人が亡くなったことを知らされました。発表を聞いた5年生は「沖縄戦で沢山の人が亡くなったことが分かった。こういう戦争がないようにしていきたい。」、6年生は「戦争では人の命や自然、文化を奪ってしまうので、もう二度としたくないと思いました。今度、校外学習で広島に行くので、この学びを活かしたいです。」という感想がありました。発表した9年生は、「発表を終えて、沖縄で学んだことをもう一度思い出し、平和の大切さを再確認することができました。沖縄の文化や自然が沖縄戦によって壊されて、民間人の心に傷を残したことから戦争はしてはいけないと伝えていきたいと思いました。」と感想を書きました。

各学年の発達段階に応じた平和学習が行われ、平和の大切さについて、深く考える時間になりました。6年生は、今回の学習を活かして、10月に校外学習で広島を訪問します。

東条学園小中学校では毎年、夏休みの登校日に「つながる平和学習」を全学年で行っています。

3年生の教室では、「平和とは、どんなこと」とい



【 資料をもとに学習する3年生 】



【 9年生の発表を聞く6年生 】

加東市中学校四校交流会

参加しました。今年度は「給食」をテーマに各校の取組を交流しました。どの学校も残菜が課題となっており、残菜コンクールや交流給食、キャラクター作成など、残食に対して特色ある取組が紹介されました。その後、給食センターで残菜を処分する動画や給食センターの調理員のメッセージ、市内の残食量などが紹介され、参加生徒は驚いた様子を見せていました。

また、「気持ちよく食事ができるマナー」「残食を減らす取組」の2つのテーマについてグループ協議を行いました。生徒からは、「そもそもどこまでがマナーになるのか」「量を調整するためのルールが必要ではないか」「ふりかけなどで味をアレンジしてはどうか」といったアイデアが出されました。最後に、附属中学校の生徒が企画したゲームをして親睦を深めました。

交流会に参加した生徒は、「他校の子と話し合うことで課題が明確になった。」「同じような取組をしていたが、得点化や集計をしていたので、今後の活動に活かしていきたい。」「他校の生徒と話せてよかった。」と、いった感想が聞かれました。小中の縦のつながりだけでなく、地域の垣根を超えた横のつながりを強化する取組となりました。



【 活発に意見交換する参加生徒 】

8月25日に滝野中学校で「加東市中学校四校交流会」が開催され、社会学園中学校、滝野中学校、東条学園小中学校、兵庫教育大学附属中学校の生徒25名が